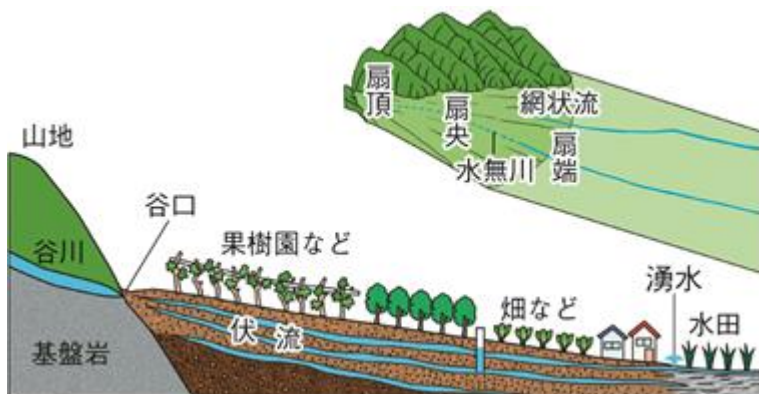


扇状地の土地利用

【集落は、生活のために必要な物資と安全性とを確保できる場所に形成される。】



・[扇頂] = [① 谷口集落] の形成。(教p.181)

【課題1】なぜ集落が成立するのか？

谷口は山地と平野の境界であり、両地域からの物資が集積し、活発に取引が行われてきたから。

・[扇央] = 畑・果樹園に利用。

【課題2】なぜ集落が立地しないのか？

河川は伏流(地面を流れずに地下を流れる)するため、水を得るのが難しいため。

【課題3】なぜ水田にならないのか？

粒の大きな礫が厚く堆積しており、水が地下に浸透しやすいため。

○近年は宅地化も進むが、戦前は桑畑や未利用地が多かった。例外的に水田がみられることもある(例:富山県砺波(となみ)平野)・・・水路や圃場(ほじょう)の整備など人の手により自然環境を克服

○地形としては、**② 天井川**が見られるところもある。

・[扇端] = 集落や水田はここに成立する。

【課題4】集落や水田が立地する理由は？

扇状地と平野との境界にあたる扇端ではこれまで伏流してきた地下水が湧き出
ため。

氾濫原の土地利用

・[自然堤防]=集落,畑として利用される。

【課題5】なぜ平野でありながら水田に利用されないのか？

度重なる河川の氾濫によって砂が堆積しているため、透水性が高いことや、微高地のため水田に適していない。

・[後背湿地]=主に[③ 水田]に利用されてきた。地盤は軟弱であるが、近年都市近郊では、宅地開発や公共施設の建設がみられる。

新しい学校・用地取得が困難・やむを得ず学校として適していない場所に建設
歴史のある学校・用地取得が容易・川越高校は川越城の本丸跡に建設

MEMO

谷口集落から発達した都市の例
(関東地方) (教p.181)



- 山からは薪・木炭・繭(まゆ)等、平野からは米・塩・魚等が運ばれた。



- 天井川＝堤防により河道の固定化をはかると、砂礫の供給がさかんな河道では堤防内（堤外地）での堆積が進行して河床（かしょう）が高くなり、ふたたび氾濫の危険が増す。これを防ぐために堤防を高くすると、さらに河床が高くなる。こうした繰り返しにより、河床面が周辺平野面より高くなった河川をいう。旧草津川など。
 - 坂戸西高校は公共施設の典型。逆に川越高校や松山高校は高台（台地）上に立地する。なぜだろうか？
- ←答えは左側

浦高の地理 2020×坂西の地理 No.30 3年()組()番 氏名()

* このページは、オンライン「生」授業で学習したことや、自分自身で学習した内容など、自由に利用してください。(このページの学習内容を評価対象とします。)